

業務資料からみる千代田図書館の歴史展

関東大震災前後の 東京市立図書館

2015年10月26日(月)~2016年1月23日(土)

会場：千代田区立千代田図書館 9階 展示ウォール

明治20年、千代田図書館の前身である大日本教育会附属書籍館しよじゃくかんが、現在の千代田区一ツ橋に開館しました。その後、現在の千代田図書館となるまでの約130年の間には、東京市、千代田区への運営母体の変化や、幾度かの館名変更がありました。いつの時代も子どもから大人まで多くの人々に利用されてきました。

この展示では、千代田図書館に残る大正から昭和初期の業務日誌や写真などを通して、東京市立だった頃の千代田図書館について前期・後期にわけて紹介します。当時の業務資料や記録からは、皆さんの利用している公共図書館とは異なる図書館の姿が見えてきます。公共図書館の歴史の一場面をご覧ください。

前期 一橋図書館と震災

2015年10月26日(月)~12月15日(火)

震災前後の東京市立一橋図書館に焦点を当てます。公共図書館の創成期に東京市立図書館の中心的な役割を担った一橋図書館は、大正12年に関東大震災で焼失しました。被災時の様子や復興への道のりを紹介します。



後期 駿河台に完成した復興図書館

12月16日(水)~2016年1月23日(土)

昭和5年に開館した東京市立駿河台図書館に焦点を当てます。震災の教訓を踏まえて完成した時代の先端をゆく建物や設計から、当時どのように図書館が利用されていたのかを具体的に読み取ります。



主催：千代田区立千代田図書館

協力：奥泉和久氏、小黑浩司氏、小林昌樹氏、鈴木宏宗氏、西村彩枝子氏、吉田昭子氏（一橋・駿河台図書館業務資料研究会）

展示関連
講演会

「一橋・駿河台図書館をつくった図書館員」
「東京市立図書館を利用するには」

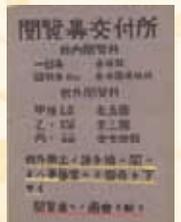
講師：奥泉和久氏、小林昌樹氏（一橋・駿河台図書館業務資料研究会）

日時：2016年1月22日(金) 19:00~20:30

会場：千代田図書館 9階 イベントスペース



波多野賢一





今回の企画展示は、「一橋・駿河台図書館業務資料」を使って調査を行う研究者グループ（一橋・駿河台図書館業務資料研究会）に展示パネル制作にご協力いただきました。そのメンバーから、奥泉和久氏より一橋・駿河台図書館を中心とした東京市立図書館史の概略や注目すべき図書館員について、小林昌樹氏より当時の公共図書館の利用方法などについて、そのほか展示パネルに書ききれなかったことをお話しいたします。

講師

●第一部 奥泉和久氏

横浜女子短期大学図書館に勤務。法政大学兼任講師。
日本図書館情報学会、日本図書館文化史研究会などの会員。
著書に『図書館史の書き方・学び方：図書館の現在と明日を考えるために』
『近代日本公共図書館年表：1867～2005』（いずれも日本図書館協会）など。

●第二部 小林昌樹氏

国立国会図書館に勤務。
編著書に『『図書週報』一昭和前期書物趣味ネットワーク誌』（金沢文圃閣、2015-）、
『雑誌新聞発行部数事典一昭和戦前期附。発禁本部数総覧』（金沢文圃閣、2011）、
『公共図書館の論点整理』（勤草書房、2008、共著）など。

日時：2016年1月22日（金）19:00～20:30（18:30開場）

会場：千代田図書館 9階特設イベントスペース

席数：50席（参加無料、事前申込不要、当日先着順、立ち見可）



会場案内

千代田区立 千代田図書館

東京都千代田区九段南1-2-1 千代田区役所本庁舎内
電話 03-5211-4289・4290

アクセス 東京メトロ東西線・半蔵門線、都営新宿線
「九段下」駅下車4番または6番出口から徒歩5分

開館時間 月～金＝10:00～22:00
土＝10:00～19:00
日・祝・12/29～31＝10:00～17:00

展示期間中の
定期休館日 11月22日（日）、12月27日（日）、
2016年1月1日（月・祝）～3日（水・祝）



千代田図書館のコレクション「一橋・駿河台図書館業務資料」

千代田図書館の前身である、東京市立一橋図書館・駿河台図書館の時代の業務資料約130点が、2013年、弊館の閉架書庫にて見つかりました。日直・宿直日誌、予算差引簿、閲覧料日計簿、図書購入関係綴など、大正12年から昭和30年頃までの資料で、日本の図書館の歴史がうかがえる貴重なものと言われております。現在、研究者のご協力をいただき調査・研究を進めているところです。2016年2月からご覧いただけます。

